

家庭数配布



令和2年度

南小だより

【学校教育目標】○やる気 ○思いやり ○げん気

～子供たち一人一人が、学ぶ楽しさ・生きる喜びを実感できる学校～

川越市立霞ヶ関南小学校

学校だより 第8号

□令和2年9月1日

□児童数：231名

(R2.9.1 現在)

□校長：武蔵 昌行

2学期が始まり2週間が過ぎました。例年、夏休み中の家庭生活が充実し、学校生活に不適應を起こす子どもの姿が見られました。本年度は期間が短かったためか、心配していた2週目も、元気に登校し、友達と楽しそうに学校生活を送る子供たちが多く見られました。これも、保護者の皆様による日頃のご支援・ご協力のおかげです。ありがとうございます。

今週より運動会の練習も本格化してまいります。従来より規模を縮小したため、子供たちの本番に向けての準備も少なくなりました。しかし、子供たちの体力自体も減っているため、体育の授業では、引き続き熱中症対策を講じながら、安全に実施してまいります。各ご家庭におかれましても、毎日の検温や健康観察、体育着の交換、汗ふきタオル用意等、裏方でサポートをお願いすることとなります。引き続き、ご支援・ご協力をお願いいたします。

「誰とでも仲良くできる子」を育てていくために…

本校の「目指す児童像」には3つの柱があります。「学びづくり（知）」「心づくり（徳）」「体づくり（体）」の3つです。その中の「心づくり」における具体的な児童像として、「誰とでも仲良くできる子」を掲げています。具体的には下図のような子供たちに育てていきたいと考え、指導しています。また、A～Eの具体的な児童像については、次のような「力」を身につけさせるために設定しました。

【心づくり】	「誰とでも仲良くできる子」
A：明るく爽やかな挨拶ができる子	A 仲良くするために必要なコミュニケーション力
B：相手の気持ちを考える子	B 相手の考えや立場から、様々なことを想定する力
C：自ら進んで解決できる子	C 想定し、考えたことを実行していく力
D：みんなのために働く子	D 状況を見て、必要に応じた行動ができる力
E：感動できる子	E 事象と正対し、素直に感じられる力

新型コロナウイルス感染症の流行により、年度当初より、計画していた教育活動が実施できていません。6月の学校再開後、子供たちの声は学校に戻ってきましたが、感染症予防の観点から教育活動の様々な面で制約があり、今までと同じように活動できないことによるストレスを抱えている子どもたちも多いと考えられます。ストレスによるイライラした感情は、時に、友達との関わりの中で見られることがあります。自分の思っていたことと違っていたときや、友達がルールを守っていなかったときなど、今までなら言葉で説明したり、困った時には教師に相談したりしていた子供たちが、感情的な言葉で怒鳴ったり、泣いてしまったりと、感情を上手にコントロールできなくなる場面を見かけることがありました。現在の状況下では、抱えた不平不満を上手に処理（経験をもとに解決法を見つける・周囲に相談する・相手の立場を考える等）していく力が弱っているかもしれません。今回の感染症は、心も弱らせてしまう病だと痛感しています。

今後も今まで以上に子供たちの心理面に気をかけ、子供たちが安定した心で学校生活を行い、集団生活の中で社会性が身につくよう、支援・指導・見届けを行ってまいります。各ご家庭におかれましても、お子様の学校生活の様子で気になる点がございましたら、各担任までご相談ください。校長・教頭・養護教諭でも構いません。学校と家庭が連携し、同じ方向性で子供たちを育てていくことが今まで以上に必要であると考えております。ご協力、宜しくお願いいたします。